

海外研修 6 日目

本日は雲の多い空ですが、日中は、28°C予想。湿度も 60%を超えているため蒸し暑いです。

8:30 ESL 授業のはじまりです。

「Zip Zap Zop ゲーム」にてリラックスさせるところからはじまりました。これは最も有名なウォームアップゲームですが、まず、輪になって立ちます。そして「ジップ、ザップ、ゾップ」という練習からはじめました。このゲームの本来のやり方は例えば「ジップ」と言いながら拍手をして、誰かを指差すところからはじまります。指さした人は拍手を送り、別の人を指差して「ザップ」と言って、そのあと指差された人は、拍手をして「ゾップ」と違う人を指差し、この行為と言葉の繰り返しが続きます。順序を外れて言葉を発すると失格となったり、長考すると失格になります。

今回は、Derick 先生が簡単な方法の見本を見せて、ゲームは進行しました。オーストラリアやアメリカでも違う言語を学ぶ前には気分をリラックスさせるために言葉遊びからはじめ、心がほぐれたあとに授業に集中させるという方法を取ります。モーニングティーの時間も同じ考え方で、授業への移行準備が大切だということでした。

8:50 ESL 授業スタート

※今日は、オーストラリア紹介の Brochure（パンフレット）作りの勉強です。滞在先のブリスベンについての紹介パンフレットを作成する授業をしました。生徒が実際にブリスベンに来てからいろんなところに行き、経験した中で日本にいる家族や友達に紹介できるようなパンフレットを作成しようというレッスンでした。

9:20 St.John's Anglican College の授業参加

→先発メンバーが教室へ向かいます。

演劇（ドラマクラス）とコンピュータ IT クラスの先発組（ドラマ:6 名、コンピュータ:12 名）が教室を移動しました。初めての現地校オーストラリア人との交流に緊張の表情を見せます。

→後発メンバーは、引き続き ESL の授業継続

●前半ドラマクラスの様子

9 年生のクラス（高校 1 年生）に参加しました。課題に対してまとめる時間は 10 分間。発表は 1 分間。グループに分かれてつくる内容でした。Belinda Daff 先生が指定した 3 つの登場人物(Wizard=魔法使い、Horse=馬、Turtle=亀)をもとに自分達でシナリオを考え、ストーリーに沿って劇をつくります。砺波高生も最初は緊張し戸惑いの様子を見せましたが、現地校の生徒の皆さんがサポートもしてくれ、それぞれの役どころに徹してくれたので、とても楽しそうに表現されていました。

●前半コンピュータ IT サイエンスクラスの様子

コンピュータサイエンス IT 主任の Sharon Singh 先生より現地校生徒さんが実際に授業で使っているメディアルーム、ディニング、プログラミング機材、e スポーツができるゲーミングルームなどの施設を紹介していただきました。Graphic Design、3D プリンター、写真取り込み、グリーンスクリーン、Podcast、Vodcast など、コンピュータテクノロジーがいたるところに使われていました。またロボット工学、試作実験室では「どのようにプログラムすればスムーズな動作を行うことができるのか」や「ドローンをどのように有効活用できるのか」などを考える授業を行っているとのことでした。ゲーミング機材やコンピュ

ーター機材は全て先生が提供したそうで、生徒は特に e スポーツのゲーミングルームやバーチャル施設にとっても興味を示していました。現地校では明日テストのため自習をしている中、試験がない生徒達とゲームを通じて交流しました。

10:30 授業終了後、モーニングティータイム

※モーニングティーは現地校ではやはり大切な時間のようです。各々が軽食を持ちよって、いろんな会話をしながら表情豊かに時間を過ごしています。砺波高生も積極的に現地校の生徒達と話して交流する姿もあり、微笑ましく感じました。

●後半コンピュータ IT サイエンスクラスの様子

演劇（ドラマクラス）とコンピュータ IT クラスの後発組（ドラマ:3名、コンピュータ:11名）が教室を移動しました。初めての現地校オーストラリア人との交流に、緊張の表情をみせますが、先発組から様子を聞いたのか落ち着いた表情で移動しました。演劇クラスは 10 年生のクラス（高校 2 年生）に参加しました。表現力を高めるアクティビティと寸劇で少し難しい内容でしたが、頑張っていました。この授業担当のローバン先生はご自身が 10 年生の時、少し日本語を習ったとのことで、片言の日本語で挨拶されました。まず円形を作り、全員でリアクションゲームを行い、緊張感をほぐしていきます。このゲームは自分が好きな動物を決めて、相手との言葉遊びをします。ルールは至って簡単でした。そのあとの寸劇のような形で自己表現するという課題は結構難しかったようですが、頑張って対応してくれました。

前半と同じく、コンピューターサイエンス IT 主任の Sharon Singh 先生より現地校生徒さんが実際に授業で使っているメディアルーム、ディニングそしてプログラミングの機材、e スポーツができるゲーミングルームなどの施設を紹介していただきました。

●授業風景について

◆演劇（ドラマ）クラス

- 1.人生も何もかもにはストーリーがある
- 2.自己表現は人に物事を伝える重要なこと
- 3.その為には、自己表現力が大切であること

→多民族国家、多宗教、多言語の国の中で、それぞれがわかりあうには言葉のほかに全体で表現する力（ボディランゲージ）が重要。極論、言葉はなくとも気持ちを伝えることはできること

課題（先発組）

※クラスグレードにより行う授業も異なる

▲Year9 演じる条件

- 1.登場人物は、Wizard（魔法使い）と Horse（馬）、Turtle（亀）は必ず登場させる
- 2.ストーリー性を持たせる（Beginning、Middle、End）
- 3.1 分程度のストーリーに纏める
- 4.7 組に分かれて発表

▲Year10 演じる条件

- 1.英語とジェスチャーで伝える
- 2.言葉を発せず、ジェスチャーで伝える

3.寸劇のような表現をするという少し難しい内容

◆コンピュータ技術研究クラス

- 1.コンピュータを学ぶ上で基礎知識は大切
 - 2.その後に必要なプログラミングを教え、
 - 3.それをもとにどのような仕事ができるのか
 - 4.いろんな機材や使用法も紹介し、生徒たちの未来像につながるような道標を示すことが大切
 - 5.コンピューターの世界は無敵大であり、様々な分野を教える必要がある
- 日本のコンピュータ教育はどうですか?と質問され、返答に困ってしまいましたが、eスポーツができるような施設はないため、現状をお伝えするのみとなりました。

コンピューターサイエンスの教室には下記の表現が大きくありました。

●スティーブ・ジョブズの有名な言葉

Innovation is the ability to see change as an opportunity,not a threat

Steve Jobs

→イノベーションとは変化を脅威ではなく、機会としてとらえる能力です。

◆現地校の生徒や生徒たちの様子です

- 1.ヘッドフォンを首に付けていても先生は何も言わない。
- 2.じっと座ることができない(ウロウロしている)生徒もいるが、しばらく放っておく。そのうち座るのを待っている現地校の先生は気長に接しています。

12:00 ESL 授業

アボリジニーの絵の文化や世界観(ドリームタイムストーリー=ドリームタイムはアボリジニーの人々にとって大切なコミュニケーションツール)を説明し、伝統的狩猟道具のブーメランのデザインを考える授業となりました。

→動物のドリームタイムストーリーをモチーフに描くように課題を出されました。

その後は2つのビデオストーリー(Tiddalick the frog、Rainbow serpent)をみて、どんなストーリーであったかを答えるものでした。

砺波高生は2つの課題にも一生懸命取り組んでいました。

12:50 ピザランチ送別会

※スクールキャプテンの高校生ジェイクをはじめ、9人の生徒の皆さんが合流してきました。

※Headquarters Information department の Mrs.Shirly Sun (香港出身の International section の責任者)より今回のプログラムや交流への感謝などのメッセージを頂きました。

13:00 砺波高生代表より感謝メッセージ

13:05 Homestay 責任者の Mrs.B より感謝の気持ちと気をつけて帰るようとのメッセージ

13:07 Mr.Derick よりメッセージ

その後、ピザランチは、現地校の生徒と言葉を交わしながらスタートしました。

13:25 証明書授与式

※Mrs.Shirly Sun より一人一人名前が読み上げられ、終了証明書を受け取りました。

13:35 ESL 授業午後の部

※英語授業の前に身体動かすアクティビティ

14:30 午前中作成した Brochure の発表（オーストラリアの紹介について）

14:40 オーストラリアブリスベンでの思い出の振り返りを英語で発表

→What is your favorite memory from visiting Australia ?

→What will you miss the most when you leave ?

※Derick 先生が指名し発表

全てを発表しない生徒に Derick は容赦なく全てを読み切るように指示する。

◆生徒の意見抜粋

1.とてもフレンドリーな生徒達と触れ合うよい機会になった。

2.学校の規模に驚きを受けた。

3.全てを楽しむことができた。

4.ホストファミリーとの時間、特にバーベキューが楽しかった。滞在の1週間は短すぎたが、とても楽しむことができた。

5.英語の勉強ばかりでハードだった。

6.ホストファミリーへの感謝。

7.ホストと一緒にギターを弾いてまたホストマザーもピアノを弾いてくれ、一緒にセッションができた

8.英語とコミュニケーションスキルの大切さを探ることが素晴らしかった。スラング言葉やオーストラリアフードなどいろいろなことを教えてもらった。

9.オーストラリアンの生徒との会話は最初は恥ずかしかったが、少しずつ慣れてきてできるようになった

10.日本には戻りたくない。それぐらい、オーストラリアが気に入った。

11.名前は知らないが、新しい友達ができ、過ごせた。

12.フルーツがとても美味しかった。

※発表を行った生徒達は心の喜びを伝えてくれました。引率している我々も非常に心が温まる一場面でした。また現地校の先生方もとても喜ばれていました。

15:10 Derick 先生よりラストメッセージ

15:30 徐々に帰宅

16:45 最後の生徒達もホストファミリーと帰宅

追伸

生徒は皆さん Rapper のように Yah~と答えられ、英語が浸透している感じがします。いよいよ明日はアクティビティ最後の日。ホストファミリーとの会話をする時間も少なくなってきました。切ない思いを伝えてくる生徒達もいらっしゃいますが、今日も元気に活動していました。